

2019年台風19号浸水被害とその後から 防災まちづくりを考える

2019年台風19号
浸水被害とその後から
防災まちづくりを考える

浸水多量・水門操作の周知・避難行動の問題点
被害状況の把握/復旧支援/町会連絡体制の課題

尾山台地区(1期) 河原一の堤防工事現場 河原一の堤防工事現場 河原一の堤防工事現場

1.2019年台風19号 川崎市多摩区菅田堤3丁目浸水被害の概要(多摩区)

川崎市多摩区菅田堤3丁目 浸水被害が起こりました！
【大丸用水水門・水路吐き口から逆流】 2019年10月12日

川崎市多摩区菅田堤3丁目 浸水地域

川崎市多摩区菅田堤3丁目 被害状況：床上浸水189件、床下浸水49件 合計238件(罹災証明)
川崎市独自の災害支援金(多摩区分)：1億410万円(104,100,000円) 30万円/件
●1階床上浸水5cm~70cm ⇒ 復旧工事費用 約200万円~1000万円
(床/壁解体→清掃/乾燥/消毒→仕上げ工事) (キッチン/浴室/洗面/トイレなど設備機器撤去と交換)
●道路・地面から50cm~1m50cm ⇒ 車両全損 のため 買い替え

川崎市建設部(令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する検証について)

1.2019年台風19号 川崎市多摩区菅田堤3丁目浸水被害の概要(多摩区)

●大丸用水水門(管理者不在/閉鎖) ●水路吐き口鎖で全閉 ●堤岸高さまで水位上昇

多摩川に代わって水門

2.浸水状況と床上浸水被害の現実 (浸水住宅(戸建)・町会解体・汚水・乾燥)

●家具の転倒、家財浮き散乱、●畳/カーペットの撤出困難、●建材(木材MDF)は吸水膨張により解体→廃材

●当日夕方の道路冠水、アンダーパス冠水の様子
●翌朝、浸水により、家財家具が転倒して泥水で汚れた家の中の様子

3.復旧改修工事、どうする？ 浸水後の住宅の現実「何処にどう？」
「何処にどう？」

●落胆している場合ではありません。被災証明は？ 掃除・片づけは？ 電気は使っている？

Web公開版(2021年7月) 3 被災証明の発行を受ける 6 掃除をするときの服装 7 復旧のときに確認をすること

水害にあったときに

被災者が多くを助けるボランティア、被災者

4.気象状況 4年前の西日本豪雨以来、毎年、更に台風等が襲来し、各地で観測史上1位を更新・想定外の危険な気象⇒命を守る行動・対策を！

平成30年の西日本豪雨は
西日本豪雨
平成30年7月

2022年7月15日夜から16日午前 山口県を含む九州北部と九州南部
気象庁 初めて「線状降水帯」が発生する可能性の予報
梅雨、台風シーズンだけでなく、記録的豪雨を警戒！